幾何学的な文様から作る立体造形

Formation of Abstract Constructions from geometrical patterns

松岡 龍介 Ryusuke MATSUOKA

作品 1 2007年／約97×150×110mm 画学紙

作品 2 2007年／約85×220×150mm 画学紙

幾何学的な文様を構成する平面図形の組み合わせを、展開図に見立てて立体造形を制作した。作品1は、正三角形と正四角形で充填した周期性を持つ文様。作品2は、正三角形と正四角形をランダムに組み合わせ充填した文様。作品3は、それぞれの辺の長さが等しい任意の菱形で充填した文様。作品4は、M. C. エッシャー(1898-1972) が好んで用いた^[1]平面充填である。

作品1、作品2は共に、鉱物、隕石や、小惑星のような

形を想起させる。作品3は、正六面体の6面それぞれの面に、同じ大きさの正六面体の面を合わせて連結したものを变形させた形状とも言えるが、どこか微生物や、海に生息するような生物にも見える。作品4では、植物の種子や、南国のフルーツのような印象を生み出している。

これらの作品は、多様なイメージを生成させると共に、2次元に充填された図形と、その組み合わせがつくる文様のイメージが、3次元の立体造形へと変換される

作品3 2007年／約140×170×165mm 画学紙

作品4 2007年／約90×75×130mm 画学紙

可能性も示唆している。

作品1，作品3は，筆者が制作した。作品2は，栗山友輔（3年生），作品4は，高木勝太（2年生）が制作した。

参考文献

- [1] ドリス・シャットシュナイダー，ウォレス・ウォーカー，“M. C. エッシャー カライドサイクル”，ベネ

ディクト・タッセン出版，(1992)，21-22.

●2008年2月4日受付

まつおか りゅうすけ
道都大学美術学部デザイン学科 准教授